

小児救急医療における、 いわゆる「出口」の問題について

日本小児科学会小児救急委員会
江原 朗、和田紀久、安田 正、
阪井裕一、中澤 誠

背景および目的

- 救急医療により患児の生命は救えても、慢性的な病態が残った場合、長期にわたる医療が必要になり、患者家族も医療者も新たな悩みを抱えがちになる。
- しかし、小児に関する全国調査は存在しない。そこで、急性期を脱したが退院できない患児の全国調査を行う。

方法

- 小児科専門医研修施設578施設に調査票を送付し、救急外来からの入院後あるいは他院からの緊急転院後に、急性期管理は必要無くなったが、退院あるいは慢性期施設への転院ができない、受診時15歳未満の患児「長期入院患児」に関する記載を依頼した。(平成21年9月9日現在)
- 基礎疾患の有無は問わなかった。
- NICUから継続して入院している患児は除外した。

結果

- 回収した研修施設数：360施設
（回収率62%）
- 長期入院患児のいる施設：116施設
- 長期入院患児数：245人（施設当たり2.1人）

施設当たりの長期患児数

長期患児数	施設数
0	244
1	59
2	32
3名以上	25
合計	360

3名以上の25施設：大学病院15(うち私学12)，小児病院4，その他の基幹病院6

長期入院患児の年齢分布

0～4歳	5～9歳	10～14歳	15歳以上	合計
131	56	21	24	232
56%	24%	9%	10%	100%

長期入院患児の入院期間

~6ヶ月	6~12ヶ月	1~3年	3年以上	合計
------	--------	------	------	----

71	38	57	63	229
----	----	----	----	-----

31%	17%	25%	28%	100%
-----	-----	-----	-----	------

長期入院患児の原疾患（重複あり）

疾患名	比率
神経疾患	47%
呼吸器疾患	19%
循環器疾患	11%
代謝・内分泌疾患	7%
外傷・中毒	7%
感染症	6%
その他	29%

入院期間と患者環境

入院期間	6か月未満	6～12か月	1～3年	3年以上	総計
付き添いなし	55%	51%	66%	75%	62%
全日付き添い	29%	17%	9%	5%	16%
気管切開	48%	68%	83%	67%	64%
気管挿管	23%	18%	5%	13%	15%
気管切開/気管挿管	2.06	3.86	16.33	5.38	4.39
胃瘻栄養	18%	2%	23%	27%	21%
チューブ栄養	71%	85%	66%	60%	69%
静脈ルート	27%	24%	13%	16%	20%
近い将来（半年程度）の退院見込みが確実	32%	10%	3%	2%	13%
退院/転院見込みなし	67%	49%	67%	84%	56%

まとめ

- 急性期を脱したが退院や転院できない患児が1施設当たり0.66人存在した。
- 年齢層では、0～4歳が最も多かった。
- 原疾患では、神経疾患が最多で、65%が気管切開を受け、71%が人工呼吸管理下であり、70%がチューブ栄養を受けていた。
- 半数強の患児が半年以内の退院または転院の見込みがなかった。